

文化構想学科

# 文化資源コース



## 文化資源コースとは

文化資源コースは、人間の文化的活動（言語によるものだけでなく、視覚、聴覚を通じたもの、さらに他者とおる場を共有すること）の全てが、人間の社会をより豊かにする「資源」であると捉え、これらについて学んでいくコースです。より具体的には美術、音楽、演劇、観光といった文化活動について、実践的な要素も交えながら学んでいきます。

## 沼田先生の研究

私の専門は、音楽です。色々な好みや感じ方をする人が、一緒に音楽を楽しむにはどうしたら良いだろうか。音楽療法やコミュニティ音楽と呼ばれる領域では、即興音楽という手法を磨き上げてきました。技術がある人もない人も、共に音楽をすることができる手法です。近年は、ジャズや現代音楽における即興音楽研究でも、多様な人々が関わる音楽活動について研究が進んでいます。私は、実際に音楽コミュニティを創って様々な実験をしながら、音楽のあり方を探求しています。理論的には、音楽学、社会学、障害学等の領域横断的視点から、「臨床音楽学」と呼び、研究を進めています。こうした研究は、広く教育や福祉の現場と関わるもので、その成果が社会的にも還元されることを願っています。



准教授  
沼田 里衣 先生

## 文化資源コースを選んだ理由

もともと日本文化や観光、まちづくりに興味があり、文化の活用について考えたいと思っていました。「文化に価値を与えて活用する」ということを軸に、人と文化、社会と文化の関係を捉えながら、フィールドワークやグループワークを通して実践的に学ぶことができるのが決め手でした。

## 面白いと思った専門科目

【科目名】  
視覚文化資源論実習

文化の活用による社会貢献を目的に企画を行いました。私の班は「イチフェス2020ーわたしが選ぶ『市大百景』」と称し、在学生や卒業生、先生方から市大の写真や動画を募集し、HPと冊子にまとめて公開しました。文化を記録することは記憶を残すことでもあり、文化には人と人の思いを繋げる力があると実感しました。

## 文化資源コースの魅力

学生同士、先生方と学生の仲の良さです。グループで企画を考える授業がたくさんあり、コース全体としては他のどのコースよりも仲が良い自信があります。休日にコースの友達と一緒に美術館などに行くこともよくあり、日常的に文化に触れ、意見交換できるのは学びにも繋がっています。



3年生  
後藤 真采 さん

## 卒論テーマ例

- ・ふなっしーに見るご当地ゆるキャラの特性とその可能性
- ・まち歩き演劇の機能と効果について
- ・東北地方のインバウンド振興を通じた観光まちづくり
- ・梶原緋佐子研究

文化資源コースにとつての『とびら』とは？

本コースは、これまで人々が培ってきた文化を学ぶことに加え、今を生きる人々と共にこれからの文化を考えていくとする人にとびらを開けていきます。文化資源を生かしていく際には、学問知と共に、実践知も必要となります。その探究の過程では、多様な現実の背景を紐解くため、色々な方法で知のとびらを開けることとなるでしょう。学術書だけでなく、公文書や私的な記録などの書物を紐解くこともあるでしょう。あるいは、人々の話を聞いて、心や記憶のとびらの奥にあるものから教わることもあるでしょう。こうした学びを自らの中で咀嚼し、形にするには、企画・制作・運営や論文執筆の様々な技法を身につけることも重要です。最終的にそのまとめが丁寧にできたなら、ここでの学びのとびらを良い形で閉めることができると飛び立てるように、応援したいと思います。（文：沼田先生）

